

12月18日（月）その110 「校長先生、こんにちは！」－笑れ－福い－

15日（金）は南部広域行政組合の忘年会がありました。幹事の渡真利さんや知念さんの企画で久しぶりに那覇の繁華街に行き、しゃれた空間内で楽しいひとときを過ごすことができました。なかなか施設課や新炉準備室のメンバーとゆっくり話す機会がないのですが、同じ屋根の下・同じ空間の中で毎日一緒に過ごしているので、屈託のない楽しい話でたくさん笑わせていただきました。二次会のカラオケでも意外な方々ののりのりのコラボや大熱唱を聴いたり、自分も歌ったりと楽しかったですね。今回は「送迎車付き」でした。感謝します、ありがとう。

医者や学者など、いろいろな方々が「笑い」の効用を説いている。私もそう思うので、管理職になってからは、いつも職員室に「笑れ－福い」（われ－ふくい）と書かせて掲示していた。ヤマトウグチの「笑う門には福が来る」のウチナーバージョンだろう。職場が楽しいと、きつい仕事も頑張れる。楽しい職場には、笑いがある。ついでに今の朝ドラは「わろてんか」だ！（笑）

今日は私の体験した「笑える楽しい話」を2つ紹介しよう。一つ目は昔々の話・・・私が4才か5才の頃に母に連れられて与儀市場の中にある親戚の家を訪問したことがあった。親戚のおばちゃんが「アイスクーキを買って食べて」と何ヶだったか小銭をくれた。親戚の子と二人でお店に行った。当時私はまだバイリンガルではなくて、日本語が話せなかった。（笑）オール「ウチナーグチ」の幼児だった。渡名喜島にはまだ電気が引かれてなく、ランプの生活をしていた時代だったので、氷を一度も見たことがなかった。

店のおばさんが、アイスクーキのケースを開けているのを見たら湯気が出ていた（冷気存在を知らなかった）。私は純粋なまなざしをおばさんに向けて、「うれー熱ちさんな？」（それは、熱いの？）と聞いた。すると店のおばさんが笑いながら「いっぺー熱さんどおー、フーフーさーまどう、かむんどおー」（とても熱いよお。フーフーしながら食べなさいよお）と言った。

二つ目は、大里中の校長をしていた平成24年（2012年）の12月の話。当時私は「年末ジャンボはどうせ当たらないから、今年からもう買わない！」と、心の中で固く決心していた。出張を終えて学校に戻る途中の車のラジオから、「今日は年末ジャンボの最終日、宝くじ売り場はものすごい行列です！」と流れていた。私は、「ふん、買うもんか！」と思った。

ふとある文具を買わねばならないことを思い出し、11月末に旧大里南小跡に新しくオープンした「イオンタウン南城大里」に立ち寄ることにした。オープンして1か月くらいなるのに、まだ行ったことがなかったのだ。

するとなんと、そこに真新しい宝くじ売り場があるではないか！しかも並んでいるのは10人くらい。「ラッキー！新しい売り場だから当たるかも！」と、もう一人の私がささやいて、固いはずの決心はどっかに吹っ飛んで、そくさと列に並んでいた。私の後ろにも4～5人並んだ。

ほどなく向こうから、授業を終えた大里中の3年男子が6人歩いて来た。彼らは私を見つけると立ち止まって、大きな声で「校長先生、こんにちは」とあいさつをした。・・・周りに一般の方がたくさんいるし、私は、あわてて口に指を当て、「分かったから、もう校長と呼ぶな。あっちへ行け！」と、手振り身振りで示した。彼らは、にこっと笑った。そして、2m位の距離まで近づいてきて、もう一度大きな声で言った。「校長先生、こんにちは！」

12月19日（火）その111 30年間売れ続けている歌ってわかる？

国民的番組・NHKの紅白歌合戦で最後に全員で合唱する「蛍の光」を担当する新しい指揮者に、作曲家の都倉俊一氏が決まったそうだ。これまで担当していた平尾昌晃氏は7月に亡くなった。同ポストは、これまでも超大物が担当してきた。藤山一郎、宮川泰（ひろし）、平尾昌晃である。

藤山一郎は国民栄誉賞受賞の歌手である。歌手で同賞をもらっているのは、美空ひばりと二人だけだ。「丘を越えて」、「影を慕いて」、「長崎の鐘」、「青い山脈」などの大ヒット曲がある。宮川泰（ひろし）は、ザ・ピーナツの歌「ふりむかないで」、「恋のバカンス」、「ウナ・セラ・ディ東京」（たそがれ時の東京）や「宇宙戦艦ヤマト」などの作曲者である。平尾昌晃は、「よこはま・たそがれ」「瀬戸の花嫁」、「二人でお酒を」や本人が歌った「カナダからの手紙」など多数のヒット曲がある。

都倉俊一もスゴイ。4才の頃からバイオリンを習ったり、小学校、高校はドイツで過ごし、学習院大を卒業した「セレブ」である。山口百恵の「ひと夏の経験」などデビューから数年の歌。そして「ピンクレディー」の歌のほとんどを作曲している。「スター誕生」の審査員も長年勤めていた。

いずれの方も誰もが口ずさめる国民的な大ヒット曲をいくつも歌ったり作ったりした方々である。

ところで皆さんは、今年のヒット曲のタイトル名を何か言えますか？私は全く言えません。誰の歌がヒットしたのかすらわからない。多くの世代が口ずさめるヒット曲がなくなっているような気がする。私がカラオケで歌えるとしたら、「ひよっこ」（若い広場・桑田佳祐）や「わろてんか」（明日はどこから・松たか子）の主題歌くらいである。（笑）

30年連続でオリコンの「年間ベスト100」に入っている超ロングヒットの曲がありますが、わかりますか？山下達郎の「クリスマス・イブ」です。この歌は昭和58年・1983年に発売されたアルバムの中の一曲でしたが、コンサートで人気が出て、3年後の昭和61年シングルカットされました。そしてその後30年にわたって12月になると売れて、オリコンのトップ100に毎年入るロングセラー曲になっています。「日本のシングルチャートに連続でチャートインした最多年数の曲」としてギネスに認定されたようです。

この曲は、作品の完成度の高さ（切ないメロディー、情景が浮かぶ詩、甘い歌声）が際立っていますが、なんと言っても昭和63年の冬、JR東海の新幹線「クリスマスエクスプレス」のCMに使われたのが、大ブレイクのきっかけでした。原曲の歌詞は、重大な決心をしてクリスマスイブに会う約束をしたのに、彼女は来なかったというとても切ない内容です。でもその歌詞とはうらはらに、CMでは遠距離恋愛のカップルがクリスマスに再会を果たすストーリーに仕立てられて、バックでこの曲が流れています。深津絵里さんが出ているこのCMは、YouTubeで見ることができます。

最近ラジオでよく聞くのはユーミンの「恋人はサンタクロース」です（ユーミンの歌の人気投票でもベスト5に入ります）。この2つの歌はともに30年以上のロングヒットになっています。この2曲によって日本では「恋人同士でクリスマスを過ごす」という新たな文化が生まれました。この2つの歌を超えるクリスマスソングは、当分出てこないかも知れませんね。

12月21日（木）その112 変化への対応－沖縄尚学高－

進化論のダーウィンが言ったとされる「強い者が生き残ったのではない。変化へ対応できたものが生き残ったのだ。」という言葉があるが、まさにそれに近いような印象を受けた。

月曜日（12.18）に沖縄尚学高の名城政一郎先生の短い講話を聞く機会があった。名城さんは沖縄尚学高校の副校長、同附属中学の校長である。私は沖尚の創立の頃の「予備校型の進学校」というイメージをずっと持ち続けていた。他には「八重瀬町に野球部の練習場がある」、「高校野球で全国制覇した強豪校。比嘉寿光、東浜巨の母校」程度の認識しかなかった。

しかし名城政一郎先生の沖縄尚学のカリキュラムの変遷の話聞いて、目から鱗というか、「すごい、変化に対応しているんだ！」と強く思った。

名城さんは明治大学大学院卒業で、アメリカの大学の客員講師として日本近現代史を担当したこともあるらしい。セントメアリーズ大学の大学院で教育学の博士号を取得したそうだ。沖尚は昭和58年（1983年）に開校し、最初は確かに予備校型進学校であった。しかし平成3年（1991年）にバブルがはじけると、名城さんは「社会の教育需要が変わる」と感じ取り、「人間力型進学校」へと変化を遂げた。そしてさらに進化して平成19年（2007年）から「グローバル進学校」として躍進しているという。2016年「週刊ダイヤモンド」という雑誌に、「日本を動かすトップ高校128校」に沖縄から唯一（九州で11校）選ばれた。

「何のために学校に通うのか」という教育の目的を、名城さんは「どうにかする力」（自分の得意を生かし、自分を幸せにする力→自己実現力）、「信頼される力」（人を安心させ喜ばせ幸せにする力→社会貢献力）をあげた。

沖縄尚学は、進学校としての実績を積み上げていることはもちろんだが、全生徒が①空手の有段者をめざす。②英検に挑戦する。③ボランティア活動をするのだそうだ。昨年度の空手黒帯取得者数は610人、英検準2級以上が高校で851人、中学で395人。100%の生徒が年に2回以上のボランティア活動を体験。異文化体験で海外へ派遣された生徒が346人、留学生等も多く13の国から154人を受け入れているらしい。また県外や海外からの生徒が92人いるようだ。まさにグローバル進学校として、世界のどこでも生きていける「グローバル人」を育成している。

システム化して実践ができるということは、すごいことだと思う。誰がやっても同じ結果が出るようにしくみを「見える化」することだから、学校全体が一丸となって取り組めば、必ず成果が出る。私も微力ながら公立学校で何度かそのような体験をしてきた。校長の時には「3つの目標の取組のシステム化」を図り、「知・徳・体」の学校教育目標と学年・学級・個人の目標を連動させ、全校生徒にPDCAで「3つの目標」に取り組ませた。この取組は、「あと6行」では語れないので、いつか別の機会に述べよう。

沖縄尚学は、実績のある進学校として各中学校から恵まれた優秀な子ども達が希望していく。その上で名城政一郎さんのような変化に対応できるトップがいて、「グローバル進学校」の取組をシステム化して、全職員で取り組んでいるのだから……学校が変わり、グローバル人が育って、巣立っているのだ。ものすごいインパクトのある50分程度の講話を聞かせてもらった。